

## 全員リレー

よっちゃんの学校では、運動会で、

みんなが走る全員リレーを

することになりました。

よっちゃんのクラスは、

何回練習しても、いつもびりでした。

よっちゃんは、すぐすわりこもうとします。

みんなは、よっちゃんを引っぱったりおしたりしながら、

練習をつづけました。

たけちゃんたちは、よっちゃんに

リレーに出てほしくないと言いました。

みんなはしーんとしてしまいました。



ゆみちゃんが言いました。

「わたし、よっちゃんといっしょに走りたい」  
走るのがにがてなゆみちゃんが、そう言うので  
みんなはびつくりしました。

「わたしも、そう思う」

けいちゃんが、つづけて言いました。

運動会の日、

みんなは、いっしょうけんめい走って  
バトンをわたしました。

よっちゃんは、だれにも助けてもらわずに  
走りきりました。

よっちゃんのクラスはビリでしたが、  
みんなはほんとうにうれしそうでした。



# 全員リレー（小学校中学年向け）

## A 教材設定の意図

運動会が近づく、活発に活動する子もいる反面、運動が苦手な憂鬱な気持ちで毎日を迎えている子もいる。よっちゃんやゆみちゃんもその一人である。

内在化しがちな差別も、こと利害が絡んだときには表面化してくる。教材にあるような「全員リレー」などでは、勝敗がかっていただけに、勝つことだけが目標になり、走るが遅い子は疎まれ、ともすれば「あの子さえいなければ」という排他的な気持ちや言動が生まれがちである。

走ろうとしないよっちゃんだが、彼なりにがんばっているその練習でのようすをずっと見守っていた友達がいる。走ることに苦手なゆみちゃんである。本教材には、ゆみちゃんやけいちゃんの発言から、勝敗を越えてクラス全員でバトンをつないで走りきったことを喜び合う子どもたちの姿が、描かれている。

子どもたちの日常の世界は遠慮がないだけに、生活の様々な場面で仲間外しがあったり、はげしい言葉が浴びせられたりする。そうした生活を見つめ直し、ともに励まし合って生活できる楽しさを感じ取っていくための、一つのきっかけとして本教材を設定した。この教材をおして、苦手なことを抱えてつらい思いをしている子どもたちや、自信がなくて下を向いている子どもたちにまわりが気づき、お互いに元気を出せる仲間づくりができればと考える。

## B 教材の解説

この教材は、県内の実践を中学年用に教材化したものである。本教材に登場するよっちゃんやゆみちゃんは「障害」をもっているが、本教材ではそれを前面に出していない。「障害」をもつ子がクラスにいない場合はよっちゃんやゆみちゃんをイメージすることに少し困難を伴うかもしれないが、障害があるとなかろうとだれもがいろいろな場面でよっちゃんのような気持ちや行動をとりうるのである。

クラスの中の誰かがそういう立場になったとき、子どもたちといっしょにどういう人間のつきあいをつくりあげていくのか、その大事な役回りを担っているのが教師である。この教材のもとになった実践では、日頃から「障害」を持っているよっちゃんとともに、毎日の生活の中で起き起こるできごとを一つひとつ分かり合い、学び合ってきた関係をつくりあげてきている。走るのが苦手なゆみちゃんやゆみちゃんは、よっちゃんが少しづつ走るようになっていく様子を共感を持って見守ってきたに違いない。ところがよっちゃんやゆみちゃんから外されようとする。「いっしょに走りたい」という言葉は、よっちゃんを外してほしくないという切実な気持ちから生まれたものである。それは走るのが苦手な自分と、よっちゃんやゆみちゃんの姿を重ね合わせて共感するところから生まれてきたものである。

実践の中では、ゆみちゃんやゆみちゃんは運動会が終わったあと次のよう

な作文を書いている。

私は運動会の朝まで、全員リレーがいやだなと思っていました。負けるのがいやだったからではありません。私は走るのが苦手なので、みんなに悪いと思っていたのです。でも、運動会はともうれしかったです。運動会が終わって家に帰ってすぐに、私は「お母さん、今日のリレー、よしのり君えらかったやろ。ちゃんとひとりですつたやろ。私も一生けんめい走ったよ。早かったやろ。」と言いました。そして「先生も『君たちのピリはすばらしいピリだ』ってほめてくれたよ」と言いました。お母さんは、「うん、よしのり君もゆみこも、みんな早かったよ。」と言ってくれました。そして、私のほほをあたたかい手ではさんでくれました。

子どもたちとの日々の交わりの中で、利害や違いを越えて、お互いを認め合える喜びと誇らしさを求めていきたいものである。

### C 指導上の留意点

・全員リレーは、複数の学級がある場合は学級対抗で、単級の場合はグループ分けをして行われることが多い。この教材では、複数の学級があるとして設定した。単級の学年で授業する際は、説明を加えておきたい。

### D 参考

・石川の人権教育第2集「出会いを求めて」（一九八六年石川県教組）

「ぼくの目をこまやかにしたい」

河原正美（小松市立能美小学校…当時）

本教材を使った授業から

◆「よつちゃんはずぐすわりこもうとします」で子どもなりに、体が弱いのか、どこか都合が悪いのか、あきらめる気持ちが出るからかなど、いろいろ考えることができてよかった。（障害を持った子という話にならず、読み手がいろいろ考えられる設定がよかった。）（河北）

◆自分のクラスにもたけちゃんのように恐くて言えない子がいるよということも言ってくれた子がいて、そのことについて二時間話し合いの時間を持った。ほとんどの子が言いたかったのに言えなかったことを出し合い、これから気をつけていこうねということでもまとめた。子どもたちの心の中にあるものを出せたのでよかったと思います。（石川）

## E 授業の展開例

教師の基本発問・助言	児童の活動・指導の要領
<p>一 導入</p> <p>① 運動会は好きですか。</p> <p>二 展開</p> <p>② 「全員リレー」を読みましよう。</p> <p>③ たけちゃんたちは、なぜよっちゃんをなまはすれにしようとしたのでしょうか。</p> <p>④ みんなは、なぜしーんとしたのでしょうか。</p> <p>⑤ ゆみちゃんは、なぜよっちゃんといっしょにはしりたかったのでしょうか。</p> <p>⑥ ぶりでしたが、みんなほんとうにうれしうでした。なぜでしょう。</p>	<p>① 嫌いだという児童の発言も、お互いに自由に聞き合う雰囲気の中で、発言させたい。</p> <p>② 場面をしっかりとイメージさせたい。全員リレーについて必要があれば説明する。</p> <p>③ 競走に勝ちたいと思ったたけちゃんたちの気持ち、自分たちの中にもあることを気づかせたい。</p> <p>④ しーんとしているときのみんなの気持ちを様々に発言させたい。</p> <p>⑤ ゆみちゃんの気持ちに寄り添って、よっちゃんの姿に励まされたこと、またみんな一緒に走りたいと思っていることを感じ取らせたい。</p> <p>⑥ 一緒に走ることができたみんなの喜びを感じ取らせたい。</p>

### 三 まとめ

⑦ みんなも、自分がつらくなかったとき、誰かに元気づけられたことがありますか。

⑦ 誰かの行動や一言で、励まされたことなど、書かせてみたい。

### 本教材を使った授業から

◆体育でリレーをした時、勝ちたいために遅い子を邪魔者扱いして、チームに入れない雰囲気を感じられた。それで、たけちゃんの「よっちゃんもリレーに出てほしくない」という気持ちに賛成するのではないかと予想した。しかし、子どもたちの中には、ビリになってもよっちゃんも一緒に全員で走った方がいいんだ、という意見が多かった。特に、いつも発表しない子が、そうしないと全員リレーにならないんだ、とはつきり言った。その言葉にみんなが納得していた。(鹿島)

◆「ぜんいんリレー」の教材を使って授業をしました。すわりこもうとするよっちゃん、よっちゃんに出てほしくないたけちゃんの、それぞれになって心の中を考えさせました。子どもたちは、どちらの子の気持ちもわかると言いました。子どもたち「たけちゃんの言ったようにみんなが賛成していたらどうなっていたかな。」

「優勝するかもしれないけれど、そんなにうれしくないよ。」  
自分たちの学校にも、全校リレーという種目が有るので、とても考えやすかったように思います。(鹿島)